



第17号

発行 平成20年12月23日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

かがやき

目次

- 1 代読サービスボランティア研修会を開催
- 2 読み聞かせ講習会を終えて
- 3 いばらき読書フェスティバル2008
- 4 資料配架ボランティアを始めて
- 5 図書修理ボランティアにおじゃましました
- 6 ボランティア協議会からのお知らせ
- 7 ボランティアの声
- 8 編集後記



1 代読サービスボランティア研修会を開催



平成20年度事業として、代読サービスボランティアの朗読の資質を高めるための研修会を開催しました。

- 1 第一回 9月18日 参加者16人
第二回 11月13日 参加者10人
- 2 講師 乙部由香里先生(茨城県視覚障害者福祉センター・音訳技術講習会講師)
- 3 内容 朗読の基礎について
イ 音訳と基礎技術
元情報を忠実につたえる
原文の一義的な再現に努める
ロ 呼吸法
腹式呼吸/呼吸法の練習

- ハ 発声
聞きとり易い音を出す/正しい音を出す/
母音が大切/口・舌をしっかりと動かす
- ニ 特殊な発音
長音化・鼻濁音・母音の無声化
- ホ アクセント
共通語のアクセント/アクセント辞典
- ヘ 音声表現技術
ピッチ(高低)/スピード(速度)/
イントネーション(抑揚)/ポーズ(間)
- ト 自然に読む練習
- チ 句読点の練習
〔代読サービス 加藤 忠司〕



2 読み聞かせ講習会を終えて



児童サービスでは、毎年自分たちの活動の充実のために、専門家をお呼びして読み聞かせ講習会を開いています。今年度は、2回開催しました。

第一回は、東京で30年以上おはなし会を続けていらっしゃる湯沢朱実先生をお迎えしました。先生は、先日亡くなった石井桃子さん主宰のかつら文庫でも活躍されていました。先生からは、よい絵本の選び方の基本を教えてくださいました。子どもが主人公であること、お話と絵が合っていること、ハッピー・エンドで終わるものなどなど。また、図書館でのおはなし会なので、読んだ絵本は借りていって楽しめるよう紹介したほうがよいとアドバイスしていただきました。

第二回は、茨城キリスト教大の原口なおみ先生をお迎えしました。先生は児童教育学科で学生たちに、絵本やおはなしについ

て教えておられます。当日は、各班から代表に出ていただいて、実際に絵本の読み聞かせをし、先生から細かいアドバイスをいただきました。絵本の持ち方・めくり方・読む基本など、自分ではわかっているつもりでも、子どもたちから見てどうなのか、実践的に教えていただき、たいへん勉強になりました。また、なかなか取り入れることがむずかしい科学絵本の読み方・選び方についても教えていただき、参考になりました。

児童サービスでは、子どもたちが楽しめるおはなし会にするために、これからもいろいろな機会を設けて学んでいきたいと思

【児童サービス 川澄 敬子】



3 図書館ボランティア 笑顔で結集!!



いばらき読書フェスティバル2008



10月26日(日) 盛大に開催された同フェスティバルは、来場者数約7,800人を数えました。



特に、視聴覚ホールの講演会は、作家吉村昭氏の奥様で作家の津村節子氏の特別あいさつと、文芸評論家川西政明氏による「桜田門外ノ変と水戸 - 吉村昭の歴史観 -」の講演があり、約500人もの方がつめかけました。



協力したボランティアは42人、それぞれの持ち場で明るく活動されていました。

活動内容

(カッコ内は参加人数、重複を含む)

- | | |
|---------------|----------|
| 前日準備(1) | 駐車場整理(3) |
| 図書修理(7) | 対面朗読(2) |
| おはなし会(20) | 喫茶コナ(6) |
| ホール受付(5) | 総合受付(4) |
| ブックマ君(2) | |
| 古本フリーマーケット(1) | |

協力未経験の皆さん、来年5月と10月のフェスティバルには是非ご参加を!!

〔広報 黒沢 英宣〕



4 資料配架ボランティアを始めて



今年夏ごろより資料配架のお手伝いを始めました。直接本に触れる仕事をしてみたいということと、都合のいい日に好きな時間だけやれるということが魅力でした。

余り自分には行かないような書架で、思いがけない本に出会えるのではという期待がありました。今のところはラベルの分類記号とのにらめっこです。書架に置いてみて初めて、ああこの人の本だったのか、と気がつくことがよくあります。

春秋と年に2回長期休館日がありますが、秋の休館日に入る前頃には、書架がいっぱいになり、本を適正な場所に入れることがすごく困難になってきました。休館日はこういうことのためにもあったのかと、初めて納得しました。休館日の後行ってみると、適正な余裕をうまい具合にとってあり、本を納めるのがとても楽になりました。本の総数、貸し出し本の数などを考えて、収納場所を配分するのが大切な仕事なのだなーと、専門の方にとっては何でもないことに、新たな発見をした思いです。

もう一つ新しく気づかされたのは大活字本のことです。これは大きくて重く、冊数も多いですから、返却された本を正しく収

納するのは大変です。一組入れるのに、邪魔な本を苦労して移動させてやっと完了と思ったら、又一組。今やっとの思いでずらした本を又ずらし直さなければなりません。ベテランの方にはコツがあるのですが、私はギブアップすることにしました。週に何回も来て、この厄介な仕事を一生懸命なさっている方もいます。配架の仕事は一人で黙々とやるものですが、この方には密かに感謝と敬意を抱いています。又、こういった重い本を借りる方の変さもよく解りました。

たまにお手伝いする児童図書はとても個性的。絵本は大きさがいろいろなのです。ただ入れることだけ考えていると、小さな本は奥の方に押し込まれて、見えなくなってしまいます。子どもの目に届くように、引っ張り出します。

新米にとっては面白い発見がいろいろあって、資料配架を始めたことに満足しています。

〔資料配架 上野 清子〕





5 図書修理作業場におじゃましました



定例金曜日ボランティア控室。図書修理の皆さん11人が熱心に作業中。皆さんに広報委員上條・小田部がインタビュー。

背表紙の復活 薄汚れて破れていた背表紙の書名をパソコンで印刷し、つぶれた四隅を作り上げるとまるで新刊本の背表紙のよう。「背表紙が綺麗になると、読んでくれる方が増えるのよ」とこの道13年のベテランの川上さんが自慢顔で説明してくださいました。当初、つくば市立中央図書館で図書修理に携われて以来、現在も県立図書館で週1日、市立図書館2箇所それぞれ1日のご精励とか。川上さんはこのグループの作業量、修復技量は近隣の図書館仲間ではトップクラスと自負されておられます。「私たちはボランティア、^{ただ}無賃の分時間をかけられる。だからこそ手を抜きたいの」と、まことにしごく当然のご尽力振り。全く敬服させられました。

グループ白一点(唯一の男性)・山口さん
「県立図書館には半世紀前からお世話になって以来のご縁。なにかご恩返しを

とグループに仲間入りして4年になります。糊つけ3年、糸扱い8年ですからまだまだ駆け出しですよ」とご謙遜でした。図書館に寄せる思い、貴重な存在とお見受けしました。

若手の末松さん 「図書修理が面白そうなので、仲間入りして2年。諸先輩に見習って修行中」と明るい笑顔。

幼児絵本の痛みが一番酷い 本の出来具合も文庫本などと全く異なり固い表紙、形も大きく、破損修理の件数は一番となっているとのことでした。

図書館の所蔵本の修理は、昔、専門職員が在籍し専念していたこともあったそうです。しかし、今では図書修理ボランティアが一手引き受けの状況で、なくてはならない**貴重なグループ**となっているようです。また、県立図書館の使命として本は廃棄せず残していくのだそうです。修理を重ねて次の世代にこの本たちが残っていくのですね…。私たちはあらためて図書修理作業の重要性と素晴らしさを確認したのでした。

〔広報 小田部 和子〕

6 ボランティア協議会からのお知らせ

ボランティア活動へ支援金 10万円

平成20年11月19日(水) 前年度に引き続き水戸西口・タリ・クラブより10万円を活動支援金としていただきました。当日の支援金贈呈式には、協議会の加藤忠司会長、児童サ・ビスから川澄敬子委員長、図書修理から川上八重前委員長、図書館から高野洋子普及課課長が出席、それぞれ各

分野の現状と活動の卓話を行いました。

各ボランティア分野におかれましては、より一層、活動の活性化と充実を図ることを目的として、具体的な用途計画書を提出していただき、ボランティア協議会の審議を経たうえで支援金を活用し計画を実施することとなりましたのでお知らせします。



7 ボランティアの声



ずうっと気になっていたのですが、児童室に並んでいる絵本の中で「岸」のシールがついている絵本はたいいてい内容のいい絵本です。しかも、そのシールのついた絵本がたくさんあります。私は絵本を選ぶ時、そのシールの中からさがすようにしていますが、どういういきさつなのか教えてください。

(児童サービス 西村 洋子)



ご質問のありました、岸さんの寄贈本についてですが、平成12年から、生涯学習の振興に寄与したいとお申し出があり寄贈いただいております。絵本や児童研究書のほか、椅子などの備品についても寄贈いただいております。毎年寄贈していただく図書は館内サービス課の担当職員がえらんでいます。特に、大型絵本や、定評のある絵本を寄贈していただいているので、良い本が多いのでしょうか。

(館内サービス課)

編集後記

四ヶ月前には想像すらできなかった、百年に一度かもしれないという世界を廻る経済不況の到来、全く想定外の事態です。輸出に力点を置く大企業の大幅減益予想、非正規従業員の整理など明るいニュースは皆無に近い今年の末となりました。来年は茨城県の租税収入も激減し、県財政も一層逼迫する余波が図書館の新規図書購入予算削減へと波及するのではと懸念しています。このような厳しい情勢に負けずに、私たちボランティアは活動を各部門で地道に継続し、将来を背負う子どもたちや、知識学識を求めて来館する方たちの一助となれますようお願いしつつ、今年の締めくくりの言葉といたします。



(上條 哲)